



院長の1分レクチャー27

【喘息予防の重要性】

「うちの子って風邪が長引きやすいのよね」「夜中に咳込んで苦しそう」

「なんだかゼーゼー聴こえるんだけど」

そんな悩みはありませんか？それ、実はベースに喘息があるのかもしれません。

喘息はアレルギーの代表的な疾患です。悪化の原因は、「春・秋」「かぜ」「煙やほこり」「激しい運動」などです。当院では「川の水位と堤防」に例えて説明しています。

アレルギーの強い子＝水位が高い

アレルギーのない子＝水位が低い

悪化の原因が積み重なると水位が上がり、堤防を越えて氾濫してしまいます（＝喘息発作）。氾濫するまではどちらも無症状です。だから喘息の子でもふだんは症状がないんですね。

予防薬は水位を下げて氾濫を防ぎます。症状がないときにこそ、しっかり続けることが大切です。成長するにつれて堤防を高く強くできれば、水位が高い子でも氾濫はしなくなります。

一方で、子供のときに何度も氾濫を繰り返した場合は堤防がもろくなっています。結果として大人になっても喘息が続いてしまうわけです。

予防の重要性がお分かりいただけただけでしょうか？

- ① 喘息の子でもふだんは症状がないので油断しないこと。
- ② 子供の時に咳や発作を繰り返すと大人になっても喘息が続く。

※「院長の1分レクチャー」はホームページや公式LINEアカウントからも読むことができます。



おおつかこども
クリニック